

跡見流こだわり旅

我々の公開講座やシンポジウムなどでテーマとして掲げた「跡見流こだわり旅」とは一体何ですか、という質問を多く寄せられている。今回当学科の紀要第一号を世に問うに当たり、我々流の「こだわり」の中身をそれなりに明らかにしておく必要がある。

跡見学園百三十有余年の長い歴史の中に脈々と流れるものを我々観光の視点から振り返ってみれば、おそらく次のような「し」ないし「ち」という音で表現できる七つの諸点が「跡見流こだわり旅」の中身として集約できるのではなかろうか。

- ① 知的「こだわり」深い教養……………一般教養・知的好奇心
- ② 地的「こだわり」当地への愛着……………地理学・地域研究
- ③ 詩的「こだわり」旅と文学……………詩歌・文学・美術
- ④ 史的「こだわり」由緒来歴……………歴史学・産業考古学
- ⑤ 師的「こだわり」専門家としての高い見識

プロフェッショナルの「師」は武士の「士」にも通ずる高い専門性と研ぎすまされた鋭さであり、観光学も学問である以上は観光の専門家らしい鋭いプロの切れ味が当然に要請されよう。

⑥ 資的「こだわり」

モノ（資産・資本）に着目する理由は、我々の観光マネジメント学科がほかならぬマネジメント学部にも所属しているからである。ベースになる学問体系は経済・経営分野とりわけマネジメント学に準拠して、資産の有効活用、資本の回転を高めるといった視点も必要である。

これら6つの chiteki/shiteki「こだわり」の学問的な視点に加えて、最後に⑦紫的「こだわり」を追加しておきたい。「し」「ち」の「こだわり」なので、ぜひとも「七つ目」が必要というのがオチである。

上記の6つの視点に跡見花溪以来の伝統「ゆかり」の要素を融合させた総合的なこだわりで、「ゆかり」の具体的な中身は美的、味的、魅的「こだわり」など若い女性が特に関心を寄せるような多様な感性を含んでいる。この部分はまだまだ未完成・未解明な部分が多く残されており、今後とも我々が努力すべき目標でもあると認識している。各方面のご教示・ご支援を切にお願い申し上げたい。

小 川 功